

【事業実績】

安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会において、地域と協働した博物館創造活動支援事業を実施しました。

(1) ミュージアムの資質向上と運営体制の強化

①学芸員研修会

2月26日実施 参加者数24人（対象者は近隣市町村の学芸員等）

感染症対策によりオンラインにて行いました。

講師／都筑正敏（豊田市美術館 学芸員）

講演テーマ／コロナ禍での豊田市美術館の状況と教育普及活動（対話型鑑賞とガイドボランティア）



<成果／反省・課題>

（参加館）コロナ禍において、他館がどのような対策をされたかを知るよい機会でした。また、友の会やボランティアなどと、どのように係わっていくのかという課題に、独自の方法でチャレンジしている点が興味深かったです。

②ミュージアムサポーターの活用

各館での活動日数合計1日

<成果／反省・課題>

館のチラシ封入作業をサポーターによって補助していただきました。昨年度に比べ、感染症対策により実施回数が減少してしまいました。事業内容の検討と、活動を提供する美術館との調整をしていきたい。

③実行委員会 全3回開催

④専門部会 全6回開催

(2) 安曇野の芸術資源を活用し普及する事業

①ギャラリートークリレー

10月17日（土）～11月3日（火・祝）実施

参加者数901人 トーク回数合計354回

感染症対策のため、オンラインでもギャラリートーク動画を公開

期間中の再生回数 合計1,209回



<成果／反省・課題>

（参加館）「鑑賞が深まってよかった」「話を聞くのと聞かないのでは全然違う。」などの好意的な感想が多く、作品についてより深く知る機会が提供できました。

（参加館）動画製作は初めての試みでしたが、勉強になりました。学芸員などにとって、新たな媒体での館のアピールは良い経験となりました。

②学校ミュージアム

安曇野市立穂高北小学校 12月3日（木）・4日（金）実施 参加児童数674人

安曇野市立豊科南小学校 12月8日（火）・9日（水）実施 参加児童数681人



<成果／反省・課題>

(実施校) 分かりやすい解説で、子どもが興味をもって参加していました。その後、自主的に調べ学習する子どももいました。

(参加館) 児童のみならず、先生方とのコミュニケーションがとれた場面もあり良かったです。

③ 小中学校向けの美術館活用プログラムの実施

全前年度制作したプログラムを、新年度に新しく着任した先生方へ配布したほか、校長会にてスクールプログラムの説明を行い、活用を依頼しました。

<成果／反省・課題>

ワークショップに参加する美術館巡りや「ちくに生きものみらい基金」を活用した自然観察会の際に施設を利用するよう小中学校の利用を進め周知を図りました。

(参加館) プログラムが学校の実情やニーズに対応できていない可能性があり、現在の冊子の改編時には、先生方に聞き取り調査を行い実態に合ったものとする必要があります。

④ 作品鑑賞会

感染症の影響により、各学校での行事が行えない状況のため、学校ミュージアムのミニチュア版として学校の空き教室で開催しました。

安曇野市明南小学校

9月22日(木) 実施 参加者児童数 220人



<成果／反省・課題>

(実施校) 本物を鑑賞できたことで、児童は普段の授業では味わえない感動や驚きを感じられたようです。様々な分野の内容が集まってきていて、個々の興味に応じ楽しめていたように感じました。

(参加館) 学校の児童や先生方にも喜んでいただけ、このような情勢ではあるが、実施できてよかったと感じています。

(3) 大学等と連携した地域文化を支える人材の育成

① 博物館実習生の受け入れ…感染症の影響により実習の受け入れ先の無い生徒に対し実施

安曇野市豊科郷土博物館 9月8日(火)～17日(木) 受け入れ人数2名

安曇野市豊科近代美術館 10月6日(火)～11日(日) 受け入れ人数2名

② オンライントークリレー…大学の授業(博物館経営論)の一環として、学芸員の仕事や館の現状についてトークを行いました。

11月2日(月)～12月21日(月) 実施、全6回

<成果／反省・課題>

(信州大学) 移動の制限された状況のなかで、地域の文化・教育機関の連携の重要性もあらためて明らかになりました。学生たちの関心も高く、とりわけ職員のみなさんの学芸としての強い意識や倫理観に直に触れえたことは、他にかえがたい経験となった。

(参加館) 学生から客観的で新鮮な視点があり今後役に立っていきたいです。オンラインはほとんど初めてでした。慣れていない中で、良い経験となりました。

